

生物多様性の恵みを受け続けられる、 自然と共生する豊かな社会の実現

- 1 生物多様性の保全と回復を進め、東京の豊かな自然を後世につなぐ
- 2 生物多様性の恵みを持続的に利用し、自然の機能を都民生活の向上にいかす
- 3 生物多様性の価値を認識し、都内だけでなく地球規模の課題にも対応した行動にかえる

人間活動や気候変動などの様々な要因により、世界中で生物多様性の劣化が進んでいます。

生物多様性の保全・回復は、植物による二酸化炭素の吸収や、雨水浸透による大雨被害の軽減など、気候変動の緩和・適応にも貢献し、人々の良質な生活に大きく関係しています。

将来にわたって生物多様性の恵みを受け続けられる、自然と共生する豊かな社会を実現するためには、生物多様性を回復軌道に乗せていく必要があります。都は2023年4月に改定した「東京都生物多様性地域戦略」に基づき、様々な施策に迅速・的確に取り組んでいきます。

生物多様性の恵みを受け続けられる、自然と共生する豊かな社会の実現

2050年のあるべき姿

- 自然に対して畏敬の念を抱きながら、地球規模の持続可能性に配慮し、将来にわたって生物多様性の恵みを受け続けることのできる、自然と共生する豊かな社会を目指していく

<4つの生態系サービスごとの東京のあるべき姿>

豊かな自然があふれ生きものと共生する都市

基盤サービス

光合成による酸素の生成、土壌形成、栄養循環など、生命の生存基盤となる機能



都内外の自然資源を持続的に利用する都市

供給サービス

食料、木材、水、薬品など、暮らしに必要な資源を供給する機能



自然の恵みにより生活を豊かにする都市

文化的サービス

自然に触れることによる芸術的・文化的ひらめき、教育的効果、安らぎなど、精神を豊かにする機能



自然の機能が発揮されたレジリエントな都市

調整サービス

気候の調整や大雨被害の軽減、水質の浄化など、安全な環境をもたらす機能



<生態系サービスごとのあるべき姿に加え、大都市東京ならではのあり姿>

- 都内のあらゆる場所で生物多様性の保全と持続的な利用が進んでいる
- 都内だけでなく、日本全体・地球規模の生物多様性にも配慮した行動変容が進んでいる

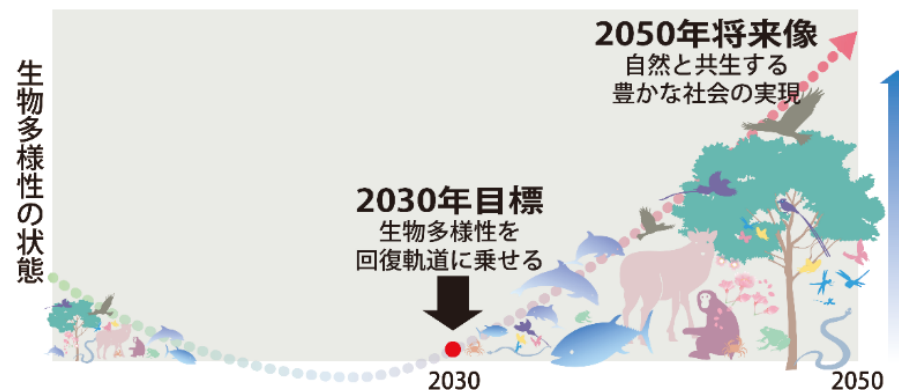


2030年目標

ネイチャーポジティブの実現

自然と共生する豊かな社会を目指し、あらゆる主体が連携して生物多様性の保全と持続可能な利用を進めることにより、生物多様性を回復軌道に乗せる

<ネイチャーポジティブ実現のイメージ>



生物多様性の恵みを受け続けられる、自然と共生する豊かな社会の実現

● 東京都生物多様性地域戦略の策定

- COP15（生物多様性条約第15回締約国会議）で見直された世界目標を踏まえて策定された生物多様性国家戦略2023-2030の公表にあわせ、2023年4月に「東京都生物多様性地域戦略」を改定・公表
- 地域戦略では、「自然と共生する豊かな社会を目指し、あらゆる主体が連携して生物多様性の保全と持続可能な利用を進めることにより、生物多様性を回復軌道に乗せる（＝ネイチャーポジティブの実現）」を2030年目標として設定
- 目標の達成のため、様々な主体が取組を進めていく上での基本戦略や行動方針を提示

＜東京都生物多様性地域戦略で掲げる3つの基本戦略＞

基本戦略 Ⅰ

生物多様性の保全と回復を進め、東京の豊かな自然を後世につなぐ

東京の自然の基礎的な情報をもとに、現在残っている良好な生物多様性の保全を進めるとともに、既に劣化してしまった生物多様性の回復を図ることで、東京の豊かな自然を後世につないでいく

基本戦略 Ⅱ

生物多様性の恵みを持続的に利用し、自然の機能を都民生活の向上にいかす

都内外の生物多様性の恵みを持続的に利用し、癒しや潤い、地域コミュニティの活性化、防災や減災、気候の調整など、都民生活の向上にいかしていく

基本戦略 Ⅲ

生物多様性の価値を認識し、都内だけでなく地球規模の課題にも対応した行動にかえる

生物多様性の価値を認識し、生物多様性を自分事として捉えることにより、都内の課題だけでなく、日本全体さらには地球規模の課題にも対応した行動にかえていく

1 生物多様性の保全と回復を進め、東京の豊かな自然を後世につなぐ

2030年目標と実績

目標	指標※1		実績	
			2022年度	2023年度
生物多様性 バージョンアップ エリア10,000+ ※2	森林再生間伐面積(累計)	5,550ha (2022～2030年度)	約481ha	約922ha
	水源林保全作業面積(累計)	3,000ha (2020～2024年度)	約1,799ha	約2,411ha
	保全地域の指定面積(累計)	約788ha (2030年度)	約760ha	約760ha
	「緑確保の総合的な方針※3」に 基づく水準1の確保地※4(累計)	301.94ha (2020～2029年度)	約17.7ha (2021年度)	約22.9ha (2022年度)
	公園開園 面積(累計)	都立公園	2,168ha (2030年度)	2,055ha
		海上公園	980ha (2028年度)	883ha
新たな野生絶滅 ZEROアクション	保全地域における 希少種対策(累計)	全50地域で実施 (2024年度)	40地域	45地域

※1 生物多様性に係る指標は、「東京都生物多様性地域戦略アクションプラン2024」の中から主要なものを記載

※2 OECM(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)など民間等の取組を「+(プラス)」で表現し、様々な主体とともに目指すことのできる目標とする。

※3 減少傾向にある民有地の緑の保全やあらゆる都市空間への緑化推進等を、計画的に推進していくことを主な目的として、都と区市町村（島しょを除く。）が合同で策定した計画

※4 方針に基づき、緑地の買収又は、法や条例に基づいて、強い規制をかけることにより、確実に保全していくもの
(制度例：特別緑地保全地区、都市計画公園・緑地事業など)

1 生物多様性の保全と回復を進め、東京の豊かな自然を後世につなぐ

施策の取組状況

2023年度の主な取組と課題等	2024年度の主な取組
(地域の生態系や多様な生きものの生息・生育環境の保全) 2050年の保全地域の指定・公有化目標を累計1,000haに引き上げ、新規指定・公有化を加速 「森林再生事業」や「東京都水道局環境5か年計画2020-2024」に基づき、間伐・枝打等の保全作業を実施 - 練馬城址公園を新たに開園し、高井戸公園や六仙公園等での整備や用地取得など、緑の拠点となる都立公園の整備を推進 「第9次水質総量削減計画」に基づき、生活排水対策や工場・下水処理場等への規制指導などの取組を推進 - 河川や運河において、汚泥のしゅんせつ等を推進 - 江戸のみどり登録緑地制度全体の魅力向上に向け、自然共生サイト（OECM）との連携を開始 ＜課題＞ ✓ 新たなみどりの確保や自然地の保全管理など、行政・都民等が一丸となって取組を推進していくことが必要 ✓ 水質総量削減計画に則り、様々な取組の推進が必要	- 保全地域の新規指定に向けた調整を進めるとともに、生物多様性等の取組を総合的に行う「東京都生物多様性推進センター」を新設し、区市町村やボランティア等と連携した効果的な管理を実施 「森林再生事業」や「東京都水道局環境5か年計画2020-2024」に基づき、間伐・枝打等の保全作業を引き続き実施 - 練馬城址公園や林試の森公園、六仙公園等での整備や用地取得など、緑の拠点となる都立公園の整備を推進 - 東京湾の水質改善に向けて事業場等への規制指導等の取組を推進するとともに、国や九都県市等と連携した対策を実施 - 河川や運河において、汚泥のしゅんせつ等を推進 - 江戸のみどり登録緑地制度において、自然共生サイト（OECM）との連携を実施

1 生物多様性の保全と回復を進め、東京の豊かな自然を後世につなぐ

施策の取組状況

2023年度の主な取組と課題等



2024年度の主な取組

(希少な野生動植物の保全と外来種対策)

- 新たに5つの保全地域において作業計画を策定するとともに、既存5地域においては、作業実績等を踏まえた計画の見直し・改善のため、専門家から継続的なヒアリングを実施
- 保護上重要な野生生物の効果的な保全対策のあり方や優先的に対策すべき事項等を示した方針検討を実施
- 絶滅危惧種である「オガサワラカワラヒワ」の保全に向け、国や小笠原村と連携し、外来種対策を推進
- 「キョン防除実施計画」に基づき、伊豆大島において、地域ごとに効果的な対策を実施。ドローンや自動通報システムなどのICT技術を活用し、効果的な捕獲を推進
- 「東京都アライグマ・ハクビシン防除実施計画」に基づき、生活環境被害防止対策として自治体と連携した捕獲を推進。また保全地域におけるアライグマの捕獲は13か所に拡大
- ナガエツルノゲイトウの対策事例調査、防除の手引きを作成するとともに、情報連絡会の開催により、情報共有・連絡体制を構築

<課題>

- ✓ 都内の野生動植物種の絶滅危険度が高まる中、各主体による対策を推進していくためには、効果的な保全対策やそれらの優先度を示すことが必要
- ✓ 地域の実態に合わせた効果的な外来種対策を、自治体と連携して実施することが必要

- 新たに2つの保全地域において作業計画を策定するとともに、既存10地域においては、作業実績等を踏まえた計画の見直し・改善のため、専門家から継続的なヒアリングを実施
- 新たな野生絶滅を回避するために、生態系に着目した保全策など、実効性の高い取組に関する基本的な考え方や対応の方向性を示した「保護上重要な野生生物の戦略的保全方針」を策定
- 「オガサワラカワラヒワ」の保全に向け、生息域外保全を推進
- 「キョン防除実施計画」に基づき、伊豆大島において、地域ごとに効果的な対策を実施。ドローンや自動通報システムなどのICT技術を活用し、捕獲を強化して実施
- 「東京都アライグマ・ハクビシン防除実施計画」に基づき、生活環境被害防止対策として自治体と連携した捕獲を推進。また、保全地域におけるアライグマ対策は、地域数を拡大し、17か所の保全地域で捕獲等を実施
- ナガエツルノゲイトウの生息状況調査を実施するとともに、情報連絡会の開催により、情報共有を推進。加えて、防除手法を検証する調査を荒川で実施

1 生物多様性の保全と回復を進め、東京の豊かな自然を後世につなぐ

施策の取組状況

2023年度の主な取組と課題等	2024年度の主な取組
(野生動物の保護管理等) - 糞塊密度調査、自動撮影カメラ調査などにより、シカの生息状況等のモニタリングを実施するとともに、個体数管理のための捕獲を実施 - 植生保護柵設置工事、植生保護柵維持管理により、シカの食害等からの植生保護を推進 <課題> ✓ 生息状況や分布域の具体的な情報把握を行うとともに、更なる捕獲が必要	- 糞塊密度調査、自動撮影カメラ調査などにより、シカの生息状況等のモニタリングを実施するとともに、個体数管理のための捕獲を実施 - 植生保護柵設置工事、植生保護柵維持管理により、シカの食害等からの植生保護を推進 - ツキノワグマ生息状況等調査、行動圏調査により生息実態を把握し、市町村と連携してバッファゾーン創出などの防除対策を実施するとともに、目撃情報マップのD X化を推進
(自然環境情報の収集・保管・分析・発信) - 自然環境デジタルミュージアムの構想を検討するとともに、DXコンテンツの発信等、普及啓発を実施 - ICT技術を活用した生きもの調査アプリ等を用いることで、都民参加型の野生生物情報の収集・蓄積をDX化を図りながら推進 <課題> ✓ デジタルミュージアム開設に当たり必要な知見、コンテンツ、ネットワーク等を蓄積していくことが必要 ✓ 都内の生物多様性の課題解決に向けた基盤情報となる野生動植物に関する情報を効果的、効率的に収集・蓄積していくことが必要	- 自然環境デジタルミュージアムの役割や機能など、詳細な内容を検討し、年度内を目途に基本計画を策定 - 都民参加型の野生生物情報の収集・蓄積をDX化を図りながら推進 - いつどこに、どんな生物が生息していたのかを、専用W E Bサイトで検索し、マップ上に表示ができるデジタル版野生生物目録「東京いきもの台帳」を作成

(詳細) 1 生物多様性の保全と回復を進め、東京の豊かな自然を後世につなぐ

● 都民参加型生きもの情報収集

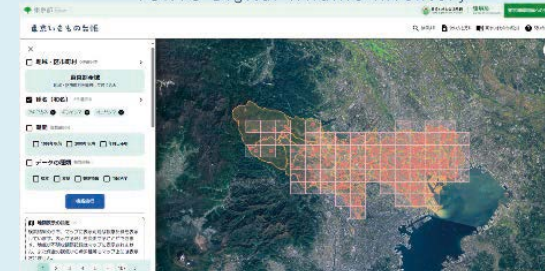
- ・ A I を搭載した生きもの調査アプリ等を活用した、都民参加型の野生生物情報の収集・蓄積事業を展開



● 野生生物目録（東京いきもの台帳）の作成

- ・ 市民科学データや標本・文献情報を合わせ、専門家の検証を経て生息時期や位置情報などをヒモづけ
- ・ 2024年5月にトンボ目録を公開。今後情報を追加することで、台帳を更にアップデート

デジタル版 野生生物目録
東京いきもの台帳
TOKYO Digital Wildlife Inventory



● デジタル技術を活用した体験型コンテンツの発信

- ・ デジタルを活用して自然の魅力を発信し、人々が集い学ぶ自然環境デジタルミュージアム構想の検討を推進
- ・ 「東京の自然を知ってもらい、行動を促す」DXコンテンツを SusHi Tech Squareなどで発信

<主なコンテンツ>

「多摩川360°ツアー」

- ・ 多摩川の上流から下流までを360°水中カメラで撮影した映像で紹介
- ・ 手元のコントローラーで視点を自由に動かし、生きものを発見



<SusHi Tech Squareでの展示の様子>



2 生物多様性の恵みを持続的に利用し、自然の機能を都民生活の向上にいかす

2030年目標と実績

目標	指標		実績	
			2022年度	2023年度
Tokyo-NbS※ アクションの推進 ～自然に支えられる 都市東京～	森林再生間伐面積 (累計) (再掲)	5,550ha (2022～2030年度)	約481ha	約922ha
	水源林保全作業面積 (累計) (再掲)	3,000ha (2020～2024年度)	約1,799ha	約2,411ha
	「農の風景育成地区」 の指定(累計)	15か所	5 か所 (指定に向けた調査費の補助、指 定した地区内の取組を促進する ための補助の創設)	7 か所 (指定に向けた調査費の補助、 指定した地区内の取組を促進する ための補助等)
	生産緑地の活用 (公園整備等)		約3.0ha	約1.8ha

※ NbS : Nature-based Solutions…自然が有する機能を持続的に利用し、多様な社会的課題の解決につなげる考え方のこと。
IUCN (国際自然保護連合) の2016年の定義では、「社会課題に効果的かつ順応的に
対処し、人間の幸福及び生物多様性による恩恵を同時にもたらす、自然の、そして、人為的
に改変された生態系の保護、持続可能な管理、再生のための行動」とされている。気候変動
や自然災害を含む社会課題に対応し、人間の幸福と生物多様性の保全の両方に貢献する
アプローチである。

2 生物多様性の恵みを持続的に利用し、自然の機能を都民生活の向上にいかす

施策の取組状況

2023年度の主な取組と課題等

(東京産の自然の恵みの利用)

- ・ 森林施業を効率化し、多摩産材の供給力を強化するとともに、都心部に多摩産材に関する新たな情報発信拠点を開設し、消費者へのPRを強化
- ・ 農薬だけに頼らない病虫害防除の実証展示等により、東京都エコ農産物認証取得者の拡大を推進
- ・ 水産資源の資源評価精度向上のための調査を実施するとともに、漁業監視体制を強化するなど、持続的な利用を推進
- ・ 都市計画公園・緑地内における生産緑地等を区市が買取整備する際の財政的支援を実施

<課題>

- ✓ 多摩産材の利用拡大や東京都エコ農産物の普及を一層進めるほか、水産資源の管理と漁業経営の両立を図りながら持続的な利用を推進していくことが必要

<とうきょうの木魅力発信拠点「TOKYO MOKUNAVI」>



<生産緑地を買い取り、公園を整備した事例（調布市）>



2024年度の主な取組

- ・ 森林施業の効率化を進め、多摩産材の供給力を高めるとともに、情報発信拠点での多摩産材に関する情報やコンテンツを充実し、消費者にPR
- ・ 農薬だけに頼らない病虫害防除の実証展示、土づくり講習会等により、東京都エコ農産物認証取得者の拡大を推進
- ・ 水産資源の資源評価精度向上のため、効率的な操業情報の収集をするとともに、漁業監視体制を実施するなど、持続的な利用を推進
- ・ 都市計画公園・緑地内における生産緑地等を区市が買取整備する際の財政的支援を実施

2 生物多様性の恵みを持続的に利用し、自然の機能を都民生活の向上にいかす

施策の取組状況

2023年度の主な取組と課題等	2024年度の主な取組
(防災・減災等に寄与するグリーンインフラの推進) 「森林再生事業」や「東京都水道局環境5か年計画2020-2024」に基づき、間伐・枝打等の保全作業を実施(再掲) - 持続可能な地下水の保全と利用の推進(地下水ガバナンス)に向け、学術機関と連携し東京の複雑な地下水の実態把握を進めるとともに、地下水に係る情報を発信 - 事業者や団体等の取組事例や効果を、「Tokyo-NbSアクション」として発信し、NbSの定着と各主体の取組を促進 <課題> ✓ 都民、事業者、民間団体などへのNbSの取組の周知が必要	「森林再生事業」や「東京都水道局環境5か年計画2020-2024」に基づき、間伐・枝打等の保全作業を引き続き実施(再掲) - 持続可能な地下水の保全と利用の推進(地下水ガバナンス)に向け、学術機関と連携し東京の複雑な地下水の実態把握を進めるとともに、地下水に係る情報を発信 - 表彰の実施などにより、事業者や団体等の取組事例や効果を、「Tokyo-NbSアクション」として発信し、NbSの定着と各主体の取組を促進
(地域の自然資源の活用) - キャンプをこれから始めたい方、家族利用など幅広い層に自然体験をしてもらえるよう、海のふるさと村の施設をリニューアル - 高尾山において、ARコンテンツの作成等のデジタル技術を活用した情報発信を試行 - 小笠原諸島、御蔵島、三宅島において、東京都版エコツーリズムを実施 <課題> ✓ 関係機関との連携を図りながら、エコツーリズム等の取組を着実に推進していくことが必要	- キャンプをこれから始めたい方、家族利用など幅広い層に自然体験をしてもらえるよう、海のふるさと村の施設をリニューアル - 自然公園内における、デジタル技術を活用した情報発信や管理運営の推進等による機能・利便性の向上 - 小笠原諸島、御蔵島、三宅島において、東京都版エコツーリズムを実施

(詳細) 2 生物多様性の恵みを持続的に利用し、自然の機能を都民生活の向上にいかす

● Tokyo-NbSアクションアワードの開催

- NbSを社会に定着させるため、優れた取組を実践する事業者等を表彰するTokyo-NbSアクションアワードを2024年12月に開催
- 受賞者によるプレゼンテーションや表彰、専門家講演、Tokyo-NbSアクションメンバー等による交流会を実施



Tokyo-NbS Action

＜表彰式の様子＞



● 自然公園における施設のリニューアルとデジタル技術の活用

- 大島海のふるさと村において、キャンプ施設を幅広い層に使っていただけるようにリニューアル
- 海のふるさと村等においてお客様の利便性や業務効率等の向上を目的としたWeb予約サービスの導入を試行

＜海のふるさと村＞



● 保全地域におけるコーディネート事業

- 様々な環境を有する保全地域で多様な主体と連携して保全管理を進めるため、2022年度よりコーディネート事業を開始
- 専門家を交え、保全地域ごとに必要な保全対策の選定や役割分担の決定、対策実施後の効果検証などの一連の作業を行い、生物多様性に配慮した管理や保全地域の活用を促進

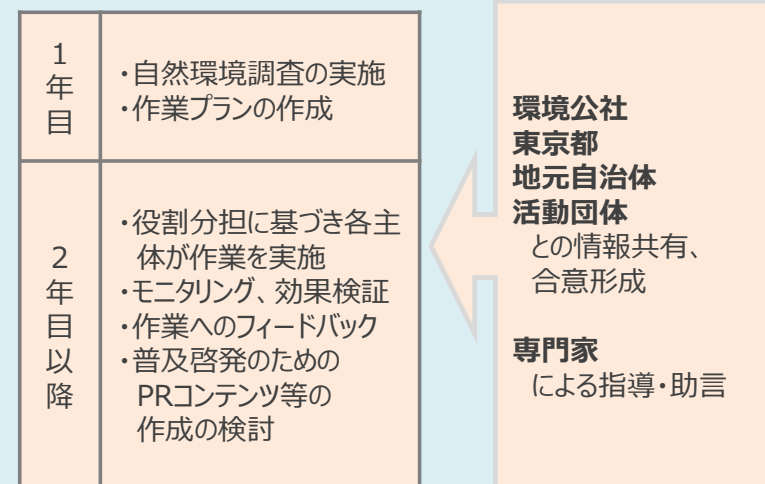
＜子供たちの環境学習の機会＞



＜復元された里山＞



＜コーディネート事業のスキーム＞



3 生物多様性の価値を認識し、都内だけでなく地球規模の課題にも対応した行動にかえる

2030年目標と実績

目標	指標		実績	
			2022年度	2023年度
生物多様性 都民行動100% ～一人ひとりの行動 が社会を変える～	「生物多様性」の認知度	100%	73.7%	74.1%
	保全地域等での 自然体験活動参加者数 (累計)	58,000人	28,841人	34,818人
	ビジターセンター利用者数		271 千人	304千人
	都民の森利用者数		224 千人	217千人

危機を契機とした脱炭素化と
エネルギー安全保障の一体的実現

エネルギーの脱炭素化と持続可能な
資源利用によるゼロエミッションの実現

生物多様性の恵みを受け続けられる、
自然と共生する豊かな社会の実現

都民の安全・健康が確保された、
より良質な都市環境の実現

政策の実効性を高める
情動的・総合的施策

資料
編

3 生物多様性の価値を認識し、都内だけでなく地球規模の課題にも対応した行動にかえる

施策の取組状況

2023年度の主な取組と課題等	2024年度の主な取組
(生物多様性の理解促進) - 自然体験プログラム（里山へGO!）で、平易な日本語で「里山」の魅力を解説するなど、子供の学習に役立つHPコンテンツを追加 - 多様な自然と人の関わりを体現できる小学生を対象としたプログラムを新たに実施 「山の日」全国大会の東京開催に向け、プレイベント等を実施 ＜課題＞ ✓ 次世代の担い手である若年層が、自然と触れ合いながら生物多様性について学ぶことが重要	- 若年層向けのプログラムを実施するなど、自然体験活動の機会を提供 - 多様な自然と人の関わりを体現できる小学生を対象としたプログラムを実施 「山の日」全国大会として、地元自治体等と連携し、東京の山の魅力や生物多様性を発信する式典・イベントを開催
(生物多様性を支える人材育成や行動変容) - 保全地域で活動するボランティア団体の支援に向け設置された「保全地域サポーター」に関し、活動回数を増やし、保全地域サポーターの多様なプログラムへの参加を更に促進 - 緑のボランティアや自然ガイドなどの人材育成を推進 ＜課題＞ ✓ 保全地域サポーターが活動できる機会を提供していくことが必要	「保全地域サポーター」の活動回数を増やし、保全地域サポーターの多様なプログラムへの参加を更に促進 - 緑のボランティアや自然ガイドなどの人材育成を推進

(詳細) 3 生物多様性の価値を認識し、都内だけでなく地球規模の課題にも対応した行動にかえる

● 第8回「山の日」全国大会 TOKYO 2024

◆大会テーマ 山とともに成長する都市、東京。 ～山々の恵みを未来へつなぐ～

- ・ 山の日とは、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という趣旨で制定された国民の祝日で、毎年8月11日には、制定趣旨を広く知ってもらうため、全国大会を開催
- ・ 2024年度の第8回大会は、東京で行われ、記念式典や歓迎フェスティバルを実施



記念式典

2024年
8月11日（日祝）

- ・ 東京の山や自然の大切さを次世代につなぐ、セレモニーを実施
- ・ 自然のあり方を芸術的に表現したメインアトラクション等により、東京の山の魅力や生物多様性を発信

<リレーセレモニー>



知事から次期開催都市の代表へ山の日帽を引継ぎ

<メインアトラクション>



テーマ：「未来に向けて見つめ直す、山への敬意と感謝」
1日限りのオリジナルステージ



歓迎フェスティバル

2024年
8月10・11日（土・日祝）

- ・ 山や自然の魅力を体感できる様々なイベントを2日間にわたり開催
(ステージショーや体験イベント、東京のご当地グルメ等)

<ワークショップ・グルメ等>



丸太切り体験
(東京チェーンソーズ)



キッチンカー
(わさび食堂)